

和歌山県工業技術センター 業 務 報 告 会



工業技術センターの
各種取組について紹介いたします。

- 日 時：令和8年 **10** 月 **9** 日(金) **13:30 ~**
- 場 所：和歌山県工業技術センター（和歌山市小倉 60）
研究交流棟 6 階 紀ノ川テクノホール・研修室
- 参加費：無 料（事前の参加お申込みをお願いします。）

申込方法：下記 URL または 2 次元コード（右）を読み取り、必要事項をご記入ください。
<https://www.wakayama-kg.jp/web-form/2026/08/r08-ghk.html>



お問合せ先：和歌山県工業技術センター 企画総務部 旅田（たびた）、西山（にしやま）

TEL：073-477-1271 WEB 問合せ：<https://www.wakayama-kg.jp/inquiry-j.html>

お申込みはこちら

和歌山県工業技術センター業務報告会 発表内容

受付：13:00～

13:40～14:20

口頭発表 第1部

13:40	① 機能性を有する和歌山ブランド乳酸菌の開発
食品開発部 主査研究員 片桐美菜	乳酸菌は、糖類を代謝し、乳酸を産生する細菌の総称です。最近では、生菌のみならず死菌や代謝産物にも有益な保健機能が報告され、その注目度が高まっています。当センターでは、約3年前から、県内のさまざまな地域資源を採取し、乳酸菌の単離を試みています。これまでに91株の乳酸菌の単離に成功し、このうちの一部については、優れた機能性を有することを確認しています。本発表では、これらの取組の内容と今後の展望について紹介します。
13:50	② 食品開発部の取組について
食品開発部 主査研究員 吉村侑子	食品開発部では、「食品加工」と「微生物利用」の2本柱で、技術支援に取り組んでいます。「食品加工」では、加工技術の開発や機能性成分を含む食品成分の分析を行っています。フードプロセッシングラボでは、企業等の担当者も交えて一緒にプロセスの検討を進めることができます。「微生物利用」では、様々な発酵食品に用いられる酵母や乳酸菌について、和歌山県オリジナル菌株の開発やその普及に取り組んでいます。
14:00	③ 透明プロジェクションフィルムの開発
化学技術部 主査研究員 増田 剛	ナノサイズの光散乱素子を内包する透明プロジェクションフィルムは、窓ガラス等への貼付により、背景の高い視認性を維持しながら、プロジェクター映像の鮮明な投影が可能です。この特性から、新たな空間設計を創出する機能性部材として、デジタルサイネージやヘッドアップディスプレイ（HUD）等への応用が期待されています。本発表では、当センターにおいて開発中の同フィルムについて、その光学特性及び投影性能を報告します。
14:10	④ プラスチックの改質・試作をしてみませんか？
地域資源活用部 主任研究員 宮崎 崇	近年、循環型社会を支える環境配慮型プラスチックとしてバイオマス材料やリサイクル材料をプラスチックへ添加することが盛んに行われており、当センターでも、プラスチックの試作や試作したプラスチックの物性評価の相談・依頼が増加しております。本発表では、当センターで行っている試作設備の紹介、物性評価設備の紹介をさせていただきます。いっしょにプラスチックの改質・試作をしてみませんか？

14:20～14:45

ポスター・休憩

14:45～15:25

口頭発表 第2部

14:45	⑤ 工業技術センター概要紹介
企画総務部 企画調整課長 西山靖浩	当センターが目的としている企業支援について、業務を行う上での考え方や現在実施している各種メニューについて、分かりやすく紹介いたします。
14:55 ～ 15:25	⑥ 各支援機関からの企業支援事業紹介
	(公財) わかやま産業振興財団、和歌山市

15:25 ～ 15 : 50

ポスター・休憩

15:50 ～ 16 : 30

口頭発表 第3部

15:50	⑦ 金属材料の腐食トラブルに関する技術支援
ものづくり支援部 主査研究員 内山真明	金属関連の企業のみならず、化学、食品など様々な業界で問題となる金属材料の腐食トラブルに対して、当センターでは以下のような技術支援や研究を行っています。本発表ではこれらの概要について紹介します。 ・腐食原因の調査、・客先からのクレーム対応、・材料選定、・適切な耐食性評価方法の検討、提案など ・梅加工場における腐食トラブルの改善に向けた腐食調査方法の研究（(公財)JKA機械振興補助事業（共同研究））
16:00	⑧ 当帰の採取時期の違いによる根と葉の成分変化に関する研究
薬業振興部 主査研究員 辻 昌吾	薬業振興部では、県内で産出される農林水産物の未利用部位を資源として捉え、これらを有効活用することで、化粧品素材等の新たな製品・用途開発を進めてきました。本発表では、当帰の採取時期の違いによる根と葉に含まれる有効成分を分析し、根については日本薬局方への適合性を確認し、葉については有効活用の可能性を検討したので報告します。
16:10	⑨ カーボンニュートラルにフィットした CO ₂ 変換技術の開発
化学技術部 主査研究員 藤井 亮	CO₂ 変換反応は、二酸化炭素回収・利用（CCU: Carbon Dioxide Capture and Utilization）における重要な技術として、注目が高まっています。しかし、回収に係るエネルギー等、プロセス上の課題もあります。本研究では、炭酸塩等を固体 CO₂ 源として使用し、ウレタンやカーボネート化合物を高効率で合成する手法を開発しました。この方法では、CO₂ 捕集・再生に係るエネルギー消費が回避可能であり、さらに CO₂ の変換効率は最大 90% という結果が得られました。
16:20	⑩ 化学技術部の最近 10 年間の活動紹介
化学技術部 部長 松本明弘	化学技術部は、化学分析評価担当と環境調和プロセス担当により構成され、県内化学系企業に対して高付加価値となる製品や生産性向上に関する技術支援を行っています。本発表では、当センター 100 周年以降に取り組みました 10 年間の主要な技術（コア技術、自動前処理技術、最新の分析装置及びデータ解析法）についてご紹介します。

13:30 ～ 17 : 00

ポスター発表

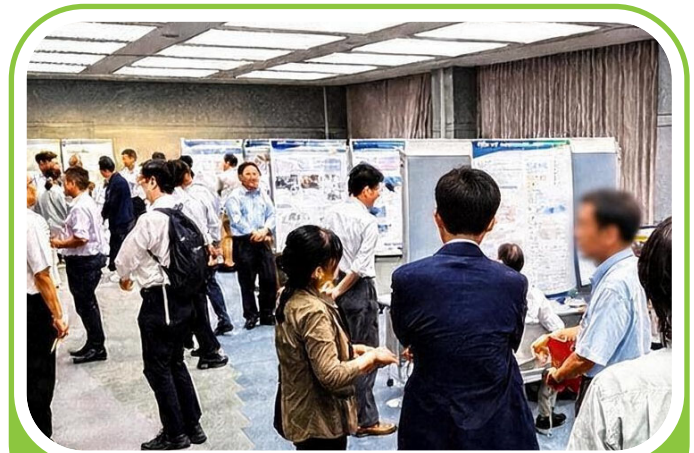
常時と 当日（開催 時間中）は、 ご覧いただけます	口頭発表の10テーマ+以下7テーマ=17 テーマの展示を行います。
	CAE(Computer Aided Engineering) を活用した強度設計に関する技術支援
	自動化・省力化支援の取組
	水生ミミズを利用した汚泥減容化技術について
	メタボローム分析用自動前処理装置の開発支援
	最新機器のご紹介 ～イオンクロマトグラフ、動的光散乱粒度分布測定装置～
	SMCR® を用いた大容量フロー合成の検討事例
	多変量解析を用いた分析データ解析の高度化

工業技術センターは本年度で創立110周年を迎えています。

職員一同、ご来場をお待ちしています。



口頭発表会場：紀ノ川テクノホール



ポスター発表会場：研修室

和歌山県工業技術センターへのアクセス

所在地：〒649-6261

和歌山市小倉 60 番地

電話：(073) 477-1271 (代)

FAX：(073) 477-2880

URL：<https://www.wakayama-kg.jp/>

- JR 和歌山線「紀伊小倉」駅から徒歩で約 15～20分
- JR 阪和線「紀伊」駅から約 7 km
- 阪和自動車道「和歌山インター」から約 8 km
- 阪和自動車道「和歌山北インター」から約 8 km
- 京奈和自動車道「岩出根来インター」から約 8 km

